

多様性ワークショップのとりくみ

土肥いつき 京都府立高校教員

はじめに

まずはじめに、わたしの勤務校における人権学習の三年間のスケジュールを示す。

次ページの表にあるように、二学期は全学年でなんらかの講演会をおこなっている。一年生は障害者差別を、二年生は在日外国人差別を、三年生は「リビングライブラリ」という形式をとって一〇人の当事者（二〇一九年度はゲイ・トランス女性・発達障害当事者・在日コリアン・アメリカン・イラク帰還兵の通訳・脳性マヒ者・シングルマザー・薬物サバイバー・福島からの避難

者）に来てもらい、子どもたちはそのなかから二人を選択して三〇分程度のミニ講演会を二セッションおこなっている。

講演以外は、一年生の三学期はデートDVについて、二年生の一学期は北海道研修旅行の事前学習としてアイヌ差別について、三学期は就職差別との闘いの歴史をとりあげている。また、三年生の一学期は人権教育担当から部落差別についての話を二時間使っておこなっている。

一年生の一学期はこうした三年間のとりくみの出発点となる内容をとりあつかっている。まず、入学式翌

	1年生	2年生	3年生
1学期	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション合宿（人権担当） ・山城ブロック共通アンケート ・世界人権宣言について（人権担当） ・多様性ワークショップ（各担任） 	北海道研修旅行の事前学習としてアイヌ差別について（各担任）	結婚差別と部落差別について（人権教育担当）
2学期	障害者差別について（高次脳機能障害の青年の講演）	在日外国人差別について（日本とフィリピンのダブルの人の講演）	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングライブラリ（10人の当事者によるミニ講演） ・内容と感想のシェア（各担任） ・労働者の権利（進路部企画の講演）
3学期	デートDV（各担任）	就職差別との闘いの歴史から学ぶ（各担任）	山城ブロック共通アンケート

※「山城ブロック」は京都府立高等学校人権教育研究会の山城地域14校の集まり。ブロック内の高校で共通のアンケートを実施している。

日から一泊二日でおこなう「オリエンテーション合宿」で一五分時間もらい、以下のような話をしていく。

はじめまして、人権教育担当です。

みなさんは「人権」と聞いて、どんなことを考えますか。

「あー、差別のことか」「差別したらあかんのやろ」

「そんなことはわかってるわ」

もしかしたら、そんなことを思うかもしれませんが

ね。「なにになにしちゃいけない教育」ってね。

でも、もしも「人権」が「差別しちゃいけない」ってことならば、わたしの担当は「差別しちゃいけない担当」になってしまいます。でも「人権教育担当」なんです。てことは、たぶん「人権」って「なにになにしちゃいけない教育」じゃなさそうですね。

じゃ、「人権」とはなにか。

それは、これから三年間かけて担任の先生から学ぶだろうと思います。が、ここではひとつだけ、「人権

が守られている状態とはどんな状態か」ということだけは言っておきます。「人権が守られている状態」とは「みんなが幸せな状態」です。どう思いますか？ハッピーでしょ？

で、人権教育担当の仕事はふたつあります。

ひとつは、「人権が守られていない状態にある生徒の話聴く」ことです。

じゃ、どんな人が人権が守られていない状態にあるか。たとえば「イジメられているひと」です。ね？イジメられていたら幸せじゃないですよ。これはわかりやすい。でも、本人は気づいていないけど、社会的にイジメられている状態にあるグループがあります。それはどんなグループか。これについては、国がリストをつくっています。いちばんはじめにあるのは？ それは「女性」です。ここにいるなかの半分くらいの方がそうですね。それから「子ども」。君たち全員ですね。あと、「高齢者」「障害者」「同和問題」

「外国人」「HIV感染者」「ハンセン病回復者」などと続きます。でも、それだけじゃないですよ。たと

えば「レズビアン」「ゲイ」「バイセクシュアル」「トランスジェンダー」あるいは「シングルマザーの状態」で生活している人とかね。みなさんのなかにもみなさん自身がそうである人もいるだろうし、みなさん自身はそうじゃないけど、親やきょうだいや親戚がそうである人もいるかもしれない。

別にそんな人がいつも不幸なわけじゃない。でも、ふとしたときに心にトゲが刺さることがある。もしもそんなとき、その気持ちを伝えたいなと思ったときに、そして「だれに伝えたらいいんだろう」と思ったときに、人権教育担当のわたしの顔を思い浮かべてもらったらうれしいです。

これがひとつ目の仕事です。

そして、もうひとつの仕事は「人権が守られた状態にある社会をつくるためにはどうしたらいいかを学ぶ学習」を企画することです。つまり「人権学習」の企画です。

「人権が守られた状態にある社会をつくる」ためには「考える」のではダメです。「つくる」ということ

は「動く」ということです。でも、「動く」ためには「道具」が必要です。そのためには「どんな道具があるのか」を知ることと、その道具の「使い方」を知らなきゃならない。それを学ぶのが「人権学習」です。そして、それを学ぶためには、いろんなことと「出会う」ことがいちばん効果的です。たとえば、すでにそんな社会をつくるために動いている「人」。あるいは「知識」や「歴史」。これから三年間、みなさんにいる人な人や知識や歴史との「出会い」をつくらうと思っています。どうか楽しみにしててください。

これで「差別しちやいけない担当」ではない「人権教育担当」からの話をおわります。

続いて、四月の終わりのロングホームルームの時間を使って、「世界人権宣言」について、人権教育担当がプレゼンをおこなっている。世界人権宣言については、子どもたちは小学校や中学校ですでに学習している。しかしながら、一度学習したからもう一度やる必要がないというわけではなく、繰り返し学習をするこ

とで定着すると筆者は考える。また、伝え方もそれぞれの段階で異なり、高校では高校ならではの内容を扱えばいいと考えている。このようにして、わたしの勤務校では三年間の人権学習の最初である一年生一学期に「人権とはなにか」を学ぶことにしている。


本報告では、「世界人権宣言」に続いて、同じく一学期の六月におこなう「多様性ワークショップ」について述べることにする。

多様性ワークショップの概要

(1)使用するカードの紹介

多様性ワークショップは、一四枚のカードを用いる。カードの両面には、たとえば「右利き」「左利き」のように対になるイラストが書いてある。ここではそのうち一二組を紹介する。なお、このカードのイラスト作成にあたっては、中学校で美術の教員をされている友人の青丹ゆきさんに協力していただいた。

カードには何を意味するものかを書いていないが、担任にはカードの意味と青丹ゆきさんからのメッセージ

 <p>心は左利き、手は右利き</p> <p>©青丹ゆき</p>	 <p>左利き 右利き</p> <p>©青丹ゆき</p>	<p>左利き／右利き 左利きは横書き、右利きは縦書きになっています。両方とも字の上に手が来ます。</p>
 <p>©青丹ゆき</p>	 <p>©青丹ゆき</p>	<p>女の子／男の子 「女」のカードの奥の生徒は、スラックスタイプの制服を選んでます。 青丹ゆきさんからのメッセージ ちなみに「女の子」で出演してる細目の女の子と「電車通学」の男の子はカップルですw</p>
 <p>©青丹ゆき</p>	 <p>©青丹ゆき</p>	<p>ネコ好き／イヌ好き 青丹ゆきさんからのメッセージ お勉強のために彼女の家に来てますが、彼の主な目的は犬と戯れること。彼女は彼のふにや顔をガン見できてホクホクしてます。2人とも勉強出来てません。明日テストやけど(笑)。</p>
 <p>©青丹ゆき</p>	 <p>©青丹ゆき</p>	<p>自分が好き／自分が嫌い 「自分が嫌い」な子と「自分が好き」な子の手つきの違いに注目してみてください。「自分が好き」な子は、玉(自分自身をあらわします)をていねいに扱っています。</p>
 <p>©青丹ゆき</p>	 <p>©青丹ゆき</p>	<p>マニア／マニアじゃない 「マニア」のカードはふたりで盛りあがっています。 青丹ゆきさんからのメッセージ ちなみに、吹き出しには何も入れません。会話が盛り上がってる演出です。</p>



©青丹ゆき

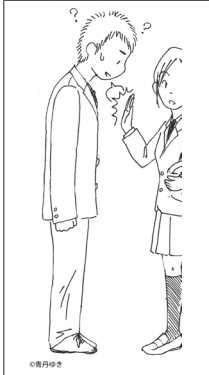


©青丹ゆき

ひとりでいたい／みんなでいたい

青丹ゆきさんからのメッセージ

彼とも彼女ともつかない、でも揺るぎない自己を持った子なんだよね。今日は気分が乗らないので自主的に最寄り駅を通り過ぎてみました、みたいな(笑)。おずおずと仲間になりたがる男の子。ちなみにミステリーマニアな3人組にレア初版を見せてます。



©青丹ゆき



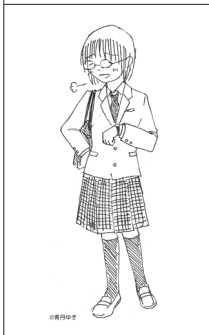
©青丹ゆき

靈感がない／靈感がある

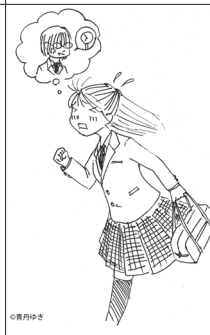
もともとは「幻聴」にかかわるカードにしようと思っていましたが、靈感少女になりました。

青丹ゆきさんからのメッセージ

オタク話に乗れない彼女は実は靈感少女なのでした。ちなみにバレ部セッター。全く靈感のない彼はミステリーマニア3人組の一人。男子バレ部に勧誘受けまくるも、運動に興味なし。以前古典ミステリー「薔薇の名前」を読んでいた彼女に声をかけようとしたところを突然ピシッと止められて固まっています。



©青丹ゆき

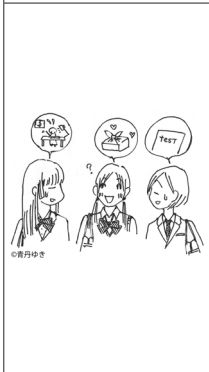


©青丹ゆき

時間を守る／時間が守れない

青丹ゆきさんからのメッセージ

女子高生の二人組。毎日予定のバスに乗れないのは右の子が毎日遅刻するから(笑)。それでも乗らずに待ってあげる優しい友だちなのでした。



©青丹ゆき




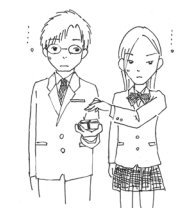




©青丹ゆき

空気を読まない／読む

「空気を読めない」「空気を読める」ではなく「空気を読まない」「空気を読む」にしました。「空気を読まない」のカードは、両端の子が勉強の話をしているけど、真ん中の子はお弁当の話をしています。「空気を読む」のカードは、怒られている空気を読むので、外向きは神妙な感じですが、内側ではあっかんべーをしています。

青丹ゆきさんからのメッセージ

ほんと、空気が読めないって実は自由。空気を読めてしまう人からしたら妬ましいことなのかもね (*^^*)

 <p>遅刻 遅刻</p> <p>©青丹ゆき</p>	 <p>ついしゃべってしまう</p> <p>©青丹ゆき</p>	<p>ついしゃべってしまう／寡黙 「ついしゃべってしまう」はADHDやアスペルガーの子のことを念頭に置いています。</p> <p>青丹ゆきさんからのメッセージ 「ついしゃべってしまう」は、友達と面接試験に望むんやけど、案の定遅刻ぎりぎり、その顛末を一生懸命説明するのに夢中です。相手は静かに、と言いつつも、いつもと同じように来てくれてホッとしてます。女の子が会長です。男の子は参謀です。公私ともに参謀になる日は近い。</p>
 <p>見え 見え</p> <p>©青丹ゆき</p>	 <p>見え 見え</p> <p>©青丹ゆき</p>	<p>メガネ／裸眼 青丹ゆきさんからのメッセージ 視力検査の2人は生徒会長と副会長なんだけど（この設定は視力検査のカット描いたときからありました）、2人とも寡黙なのです。でもツーカーで分かり合うので仕事に全く支障なし。なので、デキてる噂は常にあっても付き合うまでには至ってなくて、だけどついに彼女からチョコあげたよっていう。でも2人ともしゃべりません（笑）</p>
 <p>A B</p> <p>©青丹ゆき</p>	 <p>A B</p> <p>©青丹ゆき</p>	<p>市内出身／市外出身</p>

ジの一覧表を渡してあるので、実施時に口頭で説明してもらう。

(2) 多様性ワークショップの目的

「多様性ワークショップ」のカードを用いて、ひとりの人間のなかにはさまざまな要素があること、そして、その要素をていねいにとりあげていけば、ひとりひとりがみんな違うことを体験する。

一方、現在の社会は、そうした違いがあるにもかかわらず、「ある要素」のみをとりあげて「同じであること」を強いる社会でもあること、また逆に、「ある要素」が上下関係をつくったり権力関係をつくったりもし、それがいじめや差別とつながることを理解する。

(3) カードの使い方の例

①「○○である／○○でない」あるいは

「△△である／□□である」というイラストが表裏に書かれた二種類のカードがある。それを一枚ずつ配布し、どういうカードか説明しながら表が裏を選択させる。その際、授業者も選択をする（あとで使う）。

②すべて配布し終わったら、全員立たせる。

③授業者は、カードを一枚ずつとりだしながら「自分が表か裏のどちらの選択をしたか」を黒板に貼っていく。授業者と異なる選択をした生徒は座る。同じ選択であれば立ったままでいる。

④これを繰り返し返して、すべての生徒が座ったところまでいったん終了。

⑤「自分（授業者）とまったく同じである人は、このクラスにはいないね」ということを確認する。

⑥できればクラスのだれかに代表（Aさん）になってもらって、授業者と同じことをしてもらう。

⑦全員が座ったところで「Aさんとまったく同じ人も、このクラスにはいない」ということを確認する。

※あくまでもこれは例なので、必ずしも立たせる必要はない。クラスの状況によって、臨機応変におこなってもらえばよい。

（4）授業の展開例

社会の不平等はさまざまな形でできていることを示す。それらをカードを使いながら説明する。

①「多数vs少数」による不平等の例

「右利き」を選んだ人にカードをあげてもらおう。続いて「左利き」を選んだ人にカードをあげてもらおう。右利きのほうが多いことを確認したうえで、「パチンコ台」「自動改札機」など、さまざまな道具や機械が右利き用にできていて、左利きの人は不便をしている。しかし、右利きの人はそのことになかなか気づかないために、社会のありようはなかなか変わらないということを示す。また、最近では左利き用の道具も少しずつ増えている一方、右利き用に比べて高額であることを示すと同時に、その解決方法について意見を出しあってもよいかもしれない。

②「多数vs多数」による不平等の例

「女性」を選んだ人にカードをあげてもらおう。「男性」を選んだ人にカードをあげてもらおう。ほぼ同数であることを確認する。しかし、生涯賃金や労働のあり方、あるいは議員数など、社会への参加のしかたに大きな差があることを示す。

③「いじめ」の例

「空気を読まない」や「いるはずのない人の声が聞こえる」などのカードは、元来「違い」のうちのひとつでしかない。しかし、その反対のカード「空気を読む」や「いない人の声は聞こえない」を持つ人は、そういう自分を「ふつう」とみなしてしまう。そして、反対のカードを「ふつうではない」とみなしてしまう。そして、それがイジメの根拠となってしまう。そこで、そうした「違い」は個性であること。そして、それは尊重すべきものであることを示す。

④「住んでいる場所」の例

「市内在住／市外在住」には、とりたてて大きな差はない。しかしたとえばそれが「部落内／部落外」と

なったときに差別・被差別の関係が生まれる。

以下は、カードのなかには含まれていないが、オプションとして提示できるものの例である。

⑤民族差別の例

たとえば「興相慎三選手／李忠成選手」のカードを用意する。ふたりはともに元日本代表であり、浦和レッズのストライカーである。一方、興相選手は日本人であり、李選手は民族名を名のっている日本籍韓国人であるという違いがある。李選手が浦和レッズに入団した二〇一四年、「浦和レッズ差別横断幕事件」がおきた。この事件は李選手に退団を考えさせるほど大きく傷つけた。

しかし、この事件への制裁としてJリーグから科せられた無観客試合で、クラブがこの日発表した「差別撲滅宣言（サッカーを通じて結ばれた大切な仲間とともに、差別と闘うことを誓います）」を主将の阿部勇樹が読み上げるなど、Jリーグ全体も差別を許さない姿勢を明らかにした。

⑥LGBTの例

リオオリンピックでは選手同士の公開プロポーズのシーンが多く見られた。たとえば「異性愛カップルのプロポーズシーン／レズビアンカップルのプロポーズシーン」のカードを用意する。同性であれ異性であれ、人を好きになることそのものは変わらない。しかしながら、同性婚が認められている国は徐々に増えてきてはいるものの、まだまだ少数であり、日本を含め多くの国では認められていない。そのため、異性間と与えられる諸権利が同性間には与えられない現状がある。

(5)まとめ例

(4)で述べたように、この社会、狭くは学校・教室のなかにはさまざまな不平等はあるが、それは一四枚中一枚のカードにしか依拠していないということを示す。また、残りの一三枚のカードを考えたとき、平等／不平等とは関係ないカード(「ネコ好き／イヌ好き」など)もあれば、選択したカードの組み合わせによっ

ては不平等関係が逆転することもある(たとえば、「左利き」に今回はないが「野球」)。また、意味のとりようによってさまざまな解釈ができるカード(「ひとりになりたい／みんなといたい」など)もある。

これらのことから、いじめや差別は「特定のカード(特質)」で人を低く見たり排除したりすることに起因することを示す。

子どもの感想文

今年度一学期におこなった「多様性ワークショップ」の感想文からいくつか紹介することにする。

・今日やって感じたことは、左利きの人にとって改札などは少し不便に感じてしまうということです。もともとが右利き用でつくってあるがために不便に思う人がいるということがわかりました。また私は右利きなので左利きの人のことがわからなかったのですが、今日の授業で少しでも知れることができてよかったと思います。これから生活していく中でそうい

うものを見つけていってみたいとも思いました。

・僕は左利きなのでいろいろ不便なことがあります。

それをもっとみんな理解してくれるとありがたいと思います。特にハサミが右用だと切れないのでわかってほしいと思います。

・どんな状況においても個性というものがあって、人によって考え方が違ったりすると思います。でもたとえば利き手の話だと右利きが多いということから、基本的に右手でつくられたりされているものが多いです。左利きの人がいる中で「右利き中心」という世の中はおかしいと思います。

・多様性があるから、人とかかわっていて嫌なことや楽しいことを感じられるんだと思いました。趣味や好みが合うから友だちとして成り立っているわけではないんだと思います。自分が中心でまわっているわけではないことも理解して、まわりの人が困っていたり自分と違ったりしても不思議に思わない。

おわりに

この多様性ワークショップを最初におこなったのは二〇一三年である。もともとは、ある担任からの「発達障害があると思われる生徒へのいじめをなくしたい。そのための教材はないか？」というオファーからじまったものである。そこで考えたのがこの多様性ワークショップだった。そこでいけばん大切にしたのは「人は多様である」ということを伝えるだけではなく、「その多様性のなかに権利の不平等がある」ということこそ伝えなければならぬということだった。先にあげた感想文から、そういう筆者の考えがそれなりに伝わっているかと思う。

昨今あちこちで「性の多様性」についての学習がとりくまれていく。そのことそのものは必要だし、ますますとりくむべきことだと思う。しかしながら、「多様性」を伝えるだけで終わってはいないだろうかという懸念が筆者にはある。多様性のなかにある「権利の不平等」を伝えること。そしてその権利の

不平等を生み出しているこの社会を変えていくために必要なことはなんであるかを明らかにすること。そういう学習こそが、多様な存在が共に生きる社会をつくりだしていくことへとつながっていくだろう。

どひいつき